

1. 2018 年度を振り返って

2018 年度は支援者同士や当事者同士が「顔の見える・わかる」関係を作っていきたいとの思いで事業を進め「つながり」の中で、実践していった1年となりました。このスローガンは元々、今年度の備前県民局との協働事業から生まれたものです。

7月の西日本豪雨災害では、私どもと関わりのあるご家族が被災されたことや、周囲でもたくさんの方が被害に遭われました。心よりお見舞いを申し上げますと共に、1日も早い復興をお祈りしています。子どもが病気になることも、このような大きな災害に見舞われることも、困難というのはいつ誰に降りかかってくるかわからないものです。その中で大切なことは人と人が「顔の見える・わかる」関係での「つながり」だと感じています。

協働事業によって多くの地域に出向き子どもたちの思いや支援の必要性を伝え、多く関係者の方々とつながることができました。そして、その先にいる子どもたちやご家族との「つながり」も生まれました。岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務においても、2つの医療機関の小児病棟で子どもたちやご家族と出会い、病院の主治医の先生から当法人を案内していただいたり、以前から入退院を繰り返していた子たちが復学した後、活動に参加してくれたりするなど、培ってきた「つながり」の中で、新たな関係づくりも増えてきました。

夏には、日本郵便年賀寄附金とクラウドファンディングにより、車椅子の子どもたちも利用できるバリアフリー化を行うことができました。豪雨災害の直後ということで工事自体が難航や、法改正により昇降機の準備ができないといったハプニングの中、子どもたちの夏休み中に完成しました。活動している中で、なにより嬉しい瞬間は「ポケットサポートがあつて良かった。」「ここにくると自然とやる気が出る」と言ってくれる、子どもたちやご家族の声です。その声は僕らを勇気付け、

前に進ませてくれる大きな力となっています。

病気を抱えながら生活を送っていると「自分一人がなんでこんな思いをしなければならないんだ」という孤独感や「世の中から置いていかれてるんじゃないだろうか」といった孤立感に苛まれます。そんなとき、自分を理解してくれる人や支えてくれる人、自信を持てるように支援してくれる人、一人一人の存在が「ひとりじゃないんだ」という思いをもたせてくれます。

支援拠点である事務所の「ポケットスペース」では、学生ボランティアや看護師の配置、当事者同士によるピアサポートのできる体制により、子どもたちやご家族が安心して過ごし、話ができ、学び、「ひとりじゃないんだ」と思える、そういった場所になっていきました。支援の関わりの中では、病気の自分を少し脇に置いておいて本来の「子ども(自分)らしい時間」を過ごすことのできる環境づくりを徹底しています。「自分でもできる」そんな、ここで得た小さな自信がやがて、子どもたちやご家族の次への一歩を踏み出す原動力や、生きる力につながっていくことを願って日々、支援活動を行っていきたいと思います。

2018年2月に主催したシンポジウムから4ヶ月後、6月8日に岡山県教育庁特別支援教育課に全国でも珍しい「岡山県長期療養児教育サポート相談窓口」が誕生し、その中の専門家チームへ委嘱されることとなりました。

2018年9月に文部科学省からの通知により遠隔授業（自分の在籍している学校の授業を病気療養中の場所とインターネットを利用し同時双方向で結ぶもの）が学校の出席単位として認められるようになりました。しかしながら、現行の制度で認められている長期入院中の高校生への遠隔授業はハードルが高くとても困難な状況ですが、サポート相談窓口にかかってきた電話から始まった遠隔授業に、私たちも一緒に参画させていただくことになり、医療機関や学校、教育委員会などと連携し、ICTプロデューサーを中心に約2ヶ月間、力を惜しんで取り組みました。先日、その当該生徒さんご家族から、遠隔授業が出席単位と

して認められ、無事に進級できたとの報告をいただき、スタッフ一同、心より喜びを感じる出来事となりました。その他、関わっている子どもたちはみんな進級できたり、進学先や就職先が決まるなど、それぞれの春を謳歌しています。

岡山県教育委員会による「第3次岡山県特別支援教育推進プラン」の中に、「・・ICT 機器の活用により在籍校と入院している児童生徒がネットワークでつながることができる学習支援等の環境整備について調査研究を行います。また入退院後の継続した支援体制の構築・・」と書かれている箇所があります。ICTでの学習支援の取り組みがその発展として、今年度岡山大学と早島支援学校などで行う遠隔授業の調査研究や、今まで行ってきた入退院後の支援という、私たちが積み重ねてきたことが、岡山県教育委員会のプランと重なることとなりました。言い換えれば、これまでの支援活動の頑張りが認められた結果とも思います。

交流イベント活動では学生ボランティアたちも企画や運営に携わり大いに活躍してくれました。夏祭りにはじまり、芸術の秋・スポーツの秋の会、冬には恒例となったクリスマス会ではNPO法人チャリティーサンタやノートルダム清心女子大学のハンドベル部の演奏など他団体とのコラボレーションも行われています。以前から関わりのある子どもが成長して高校生となり、当日の運営スタッフとして関わったり、ボランティアのOB・OGたちも駆けつけてくれたりと、ポケットサポートで出会い成長していった仲間がまた集い、新しく出会った子どもたちにも力を発揮してくれる場となったことは大きな喜びです。また、子どもたちとの体験プログラムだけでなく、保護者の方々の座談会の開催もスタンダードとなり、「支える人たちを支える」という私たちの思いが形となった年となりました。

また、2018年度は体制づくりにも力を入れてきました。事務局スタッフや周囲の方々の力添えや協力によって、法人設立来から掲げていた、「認定NPO法人の取得」、「岡山市小児慢性特定疾病

児童等相互交流支援業務の受託」という2つの大きな目標を達成することができました。さらに、年度の最終には岡山県初の「グッドガバナンス認証」を得るという嬉しい知らせも舞い込んできました。全てはスタッフ、ボランティア、ポケットサポートの活動を様々な面から支えてくれる皆様の力の賜物です。

今年度も岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務が継続となり、当法人の支援拠点である事務所、岡山済生会総合病院、国立岡山医療センター、それぞれで週1回ずつの活動が決まっています。恒例の季節ごとの交流支援イベントに加え、講演会や研修会なども行っていきます。また、新たに大学や支援学校などとの連携や協力も始まる予定となっています。健全な運営を心がけ、活動を維持・発展していけるようなファンディング（資金調達）にも力を入れていきたいと考えています。様々な活動をスタッフやボランティアら皆としっかり話し合いながら、子どもたちの未来に繋がるよう、力を合わせて進めていく所存です。

2019年5月より平成が終わり令和元年となりました、この1年も変わらず、病気による困難を抱える子どもたちを支える支援団体として、認定NPO法人ポケットサポートの応援を引き続き、お願いいたします。

代表理事 三好 祐也

2. 2018年度（平成30年度・第4期）事業報告

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象人数
個別学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対する学習サポート	自主	43,552	小中高校生 のべ約20名
双方向WEB学習支援	ICT機器やWEBを活用した学習支援	助成	1,412,007	小中高校生 のべ約30名
VR体験学習	病気や身体的な障害により体験できなかったことを、仮想現実で体験	助成		小中高校生 のべ約20名
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	助成	1,479,303	大学生 のべ約80名
小計			2,934,862	

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象人数
ポケットスペース運営	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施	受託	2,263,632	小児慢性特定 疾病児童等 のべ約280名
事務所バリアフリー化	活動拠点（事務所）施設整備事業	補助・ 自主	4,625,812	車椅子利用者 のべ約20名
交流イベント	季節に応じた交流イベントの開催	助成	408,258	小中高校・若者 のべ約60名
体験学習	ボランティアらと共に学ぶ交流体験学習	助成	296,016	小中高校生 のべ約30名
きょうだい・家族ケア	当事者同士の語りによるピアサポート、自分らしい家族形成支援	助成	561,689	当事者保護者 のべ約30名
小計			8,155,407	

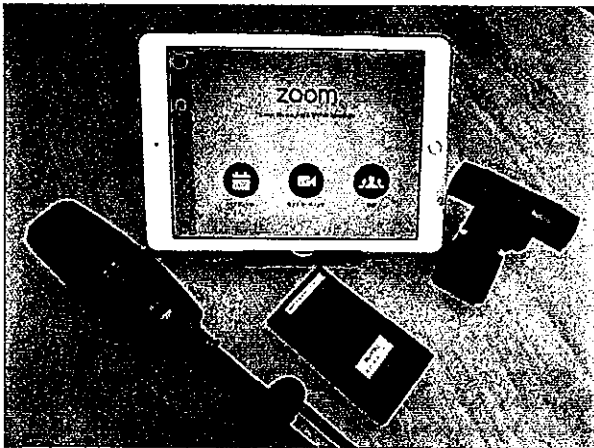
(3) 病弱児への支援に関する啓発・講演活動及び講師派遣事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象人数
講師派遣事業	大学等に派遣し病弱児支援について広報、周知活動	謝金	22,282	講演等参加者 約1,200名
副島先生講演会	病弱児の教育や療養環境についての講演会	助成	ボランティア 育成と合算	地域支援者等 約247名
慢性疾病を抱える若者の就労啓発	病弱児への就労等に対する意識向上、病弱若年層が働ける環境づくり	助成	774,966	地域支援者等 約50名
病弱児を支える地域支援ネットワーク作り	課題や現状を地域の支援者が共有、安心して過ごせる地域基盤づくり	補助	1,449,167	地域支援者等 約130名
小計			2,246,415	

個別学習支援、双方向WEB学習支援、VR体験学習



▲支援拠点での個別学習支援風景



▲双方向WEB学習支援用ICT機器

【個別学習支援】

- ・年間を通じて18回実施
- ・場所は支援拠点または自宅等
- ・自宅治療中などに自宅へ訪問して学習をしたり、定期テスト前に試験勉強をするなど様々なニーズに合わせて学習支援員が対応

【双方向WEB学習支援】

(ベネッセこども基金助成事業)

- ・ノートパソコンや、WEBカメラを活用してインターネット通信による映像と音声の中継
- ・放課後に学習支援員と中継を結んで、体調に配慮しながら定期試験の勉強や学習空白を補う
- ・年間を通じて随時対応

【VR（仮想現実）体験学習】

- ・360度撮影できるカメラとVRゴーグルを使って移動困難な遠隔地にある観光地散策やアトラクション、花火大会などを仮想体験

ボランティア育成(新規ボランティア研修、フォローアップ研修)

■新規ボランティア説明会および初回研修

- ・開催日：2018年5月20日、2019年3月10日
- ・大学窓口を通じて学生ボランティアを募集
- ・説明会及び初回研修を受講後に活動開始

■フォローアップ研修

- ・開催日：2018年4月14日、2019年3月10日
 - ・外部講師による感染症対策、心理的ケア研修等
- ※別途、実践研修として交流イベントを実施

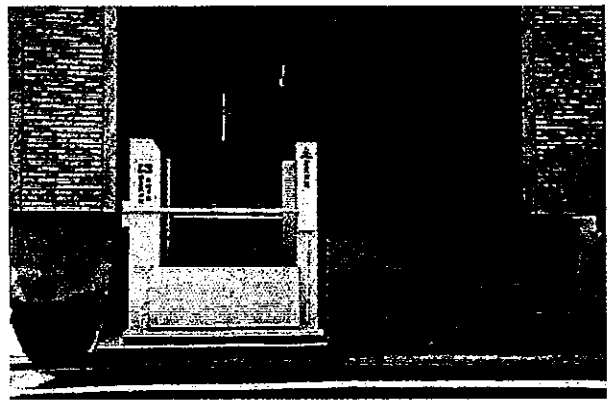


▲新規ボランティア説明会および初回研修風景

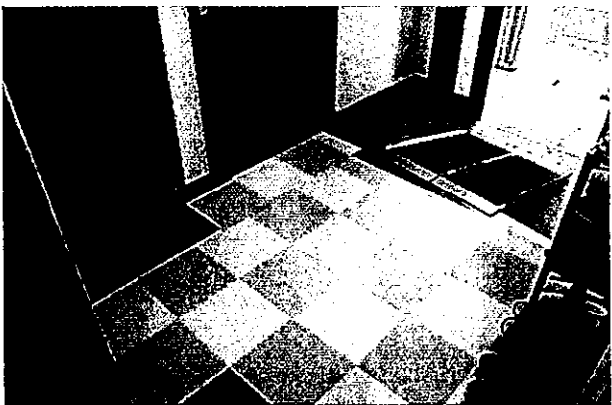
事務所バリアフリー化

- ・改修工事時期：2018年6月～8月
- ・日本郵便年賀寄附金助成およびクラウドファンディングを実施して工事資金を調達
- ・改修工事総額：4,338,036円
- ・日本郵便年賀寄附金額：3,425,837円
- ・施工：株式会社ネストコーポレーション岡山

・車椅子を利用する子どもが夏休みの宿題や、慢性疾病を抱える若者が就労体験できる施設として有効活用



▲改修後の事務所（支援拠点）玄関風景



①既存の階段と花壇を解体撤去
スッキリとした姿になりました



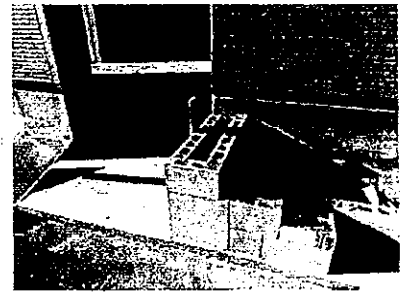
②新しい階段の組み上げと
昇降機設置スペースの確保



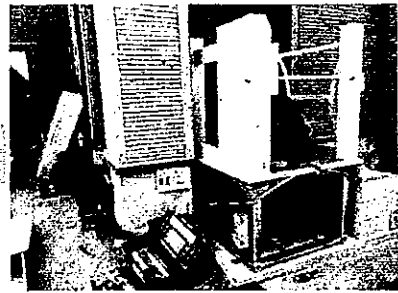
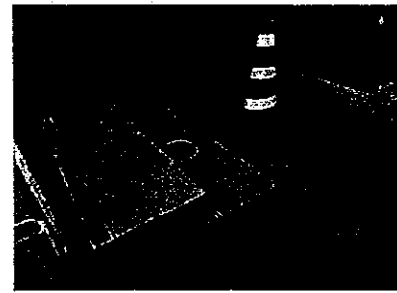
⑥階段にタイルが貼られ
新しい活動拠点の玄関風景に！



⑤いよいよ車椅子用昇降機設置！
皆様のご支援で購入できました



④階段部分のコンクリート打設終了
次はボケサボカラーのタイル貼り



慢性疾患を抱える子どもの相互交流を支援する「ポケットスペース」

毎週の支援拠点での活動には年間述べ 71 人の子どもやご家族が参加。2 施設の小児病棟でも年間述べ 207 人の子ども・保護者が利用した。

知育ゲーム交流や、テスト勉強、長期療養中の学習空白を埋め、ピアサポート相談として生活の悩みなど、多彩な活動の場となった。

研修や講習会を受けた学生ボランティアたちが活躍する等、支援従事者は述べ 337 人となり、活動前の問診チェックや、支援拠点では看護師の配置や感染症対策など安全な場の提供を行うことを心がけた。



岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務

交流イベント、体験学習

季節ごとに行う交流会や体験学習は、スタッフやボランティアを中心に企画・運営し、恒例の「夏祭り」「クリスマス会」に加え「夏休み宿題やっつけ隊」「スポーツの秋・芸術の秋」や「科学実験教室」など今年度は盛りだくさんの内容で開催。他 NPO 法人や、玉野市の高校、大学のサークル等との連携やコラボレーションも行った。

- (1) 春イベント：参加者 13 名
日時：4 月 28 日
会場：きらめきプラザ
- (2) 夏祭り交流会：参加者 13 名
日時：8 月 19 日
会場：きらめきプラザ
- (3) 秋イベント：参加者 16 名
日時：11 月 4 日
会場：きらめきプラザ
- (4) クリスマス会：参加者 19 名
日時：12 月 22 日
会場：きらめきプラザ
- (5) 科学実験交流：参加者 21 名
日時：3 月 3 日
会場：きらめきプラザ



▲秋イベントの様子（アイロンビーズ）



▲クリスマス会（サンタさんと一緒に集合写真）

きょうだい家族ケア

保護者の「保護者だけで生活の悩みを話せる場所があったら良い」といった声からはじまった「ほっとスペース」を開催した。

交流イベントに合わせて、同じ施設の別室で行う保護者座談会は、毎回とても好評で当団体のスタンダードとなった。交流イベントにはきょうだいの参加も可能で、小さいお子さんの場合には保護者の方と過ごすこともできる場ともなった。



▲クリスマスリースづくりの様子

講師派遣事業

2018年度は、年間16回（うち、大学や高等学校、中学校で6件）の講演を行う。テーマは様々で、病気の子どもたちが抱えている思い、教育支援について、代表の三好が当事者としての自立の話などを話した。また、県外からも多数の講師派遣依頼を頂き、愛知や三重、東京、小児科医会、学会等で講演を行った。

【2018年度実績】

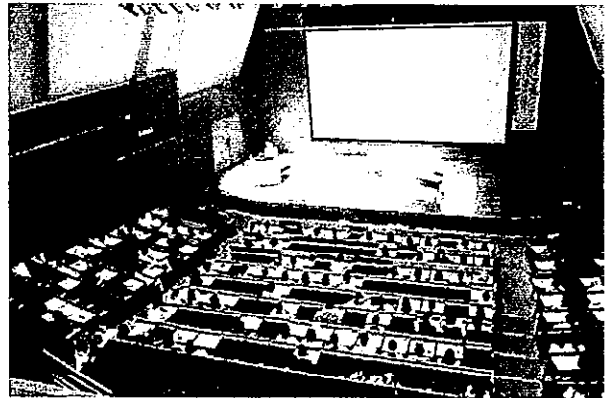
- ① 4月8日：第28回日本外来小児科学会
春季カンファレンスシンポジウム
「子ども支援・子育て支援」
場所：東京国際フォーラム
- ② 4月16日：岡山大学教育学部 約60名
「病弱者心理・生理・病理学概論」
- ③ 5月29日：岡山大学教育学部 約150名
「発達障害教育概論」
「発達障害教育概論」（6月1日実施）
- ④ 9月2日：第75回三重県小児保健学会
場所：三重県総合文化センター
- ⑤ 9月20日：企業研修 社会課題を考える
場所：スイッチワークス 約20名
- ⑥ 10月17日：「人権連続講座」 62名
場所：水島公民館
- ⑦ 10月23日：岡山県立真庭高等学校（落合校地）
特別講義 18名
- ⑧ 11月10日：岡山市立桑田中学校 約250名
「病気の子どもたちの教育について考える」
- ⑨ 11月16日：第2回チャレンジ研究会
「病気の子どもたちの現状とポケットサポートの取り組み」
場所：エイドネット事業本部 約10名
- ⑩ 11月18日：日本小児科医会中国四国ブロック協議会 特別講演 約40名
場所：岡山コンベンションセンター
- ⑪ 11月24日：灘崎公民館 約10名
講演「ひと、人、講座」
- ⑫ 12月11日：武田薬品工業 約300名
「患者さんを支えるNPO活動から見える日本の社会、医療現場の課題」
- ⑬ 1月25日：岡山大学保健学科 約25名
講義「医療人のための教養」
- ⑭ 1月26日：愛知県病弱児療育研究会 約70名
場所：愛知県医師会館
- ⑮ 2月9日：岡山城東ライオンズクラブ
認証20周年記念式典 講演 約40名
場所：西大寺グランドホテル
- ⑯ 2月26日：玉野渋川ライオンズ 約40名
場所：由加温泉ホテル山桃花

副島先生講演会

毎年恒例となった「赤鼻のセンセイ」こと、昭和大学副島賢和先生の講演会を岡山大学の創立五十周年記念館（金光ホール）にて開催。当日は感情にスポットを当てたテーマで247人の方々が聴講した。その他、支援者やボランティアらスタッフに向けた講習の場も開催した。

開催日時：平成30年6月10日（日）

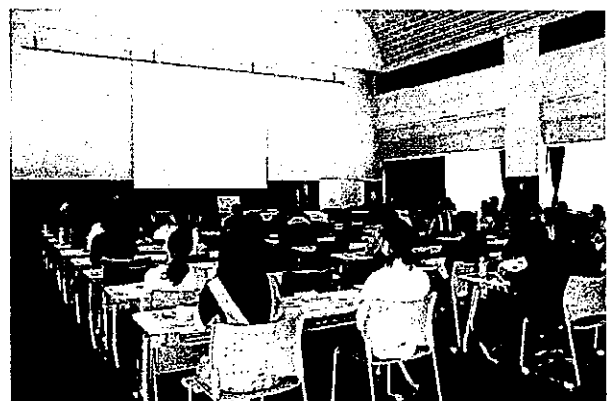
会 場：岡山大学創立五十周年記念館



慢性疾病を抱える若者の就労啓発

障害者雇用などの問題もある中で、まだまだ進んでいない慢性疾病など病気を抱える若者たちの就労問題について、日本財団の助成事業で啓発のイベントを開催した。

難病の若者の就労移行を進めた事例の話や、岡山県で初めての難病の若者が在宅で行った就労移行支援、その当事者の話など、それぞれの立場からの話により、これからの病気を抱える若者たちの就労のあり方について多くの方と一緒に考える場となった。「そこに行く」という物理的な障害を乗り越えるため Youtube 配信も実施した。



病弱児を支える地域支援ネットワーク作り

備前県民局との協働事業で、支援者同士が「顔の見える・わかる」関係でつながることを目的とし、玉野市、瀬戸内市、備前市でキャラバン講演会という形で当事者や大学の先生方による講演や、ワークショップを取り入れたオーダーメイドの会を開催した。医療・教育・福祉・子どもの支援団体や、当事者家族とのつながりが生まれ、事業で作成したハンドブックは県下に5,800部を配布した。



運営に関する事項

(1) 総会

通常総会	開催日	2018年6月16日
	場所	THE MAGRITTE（岡山市北区丸の内1-5-8）
	出席	社員総数31名のうち29名出席（本人出席10名、表決委任状19名）
	決議事項	・2017年度（平成29年度・第3期）事業報告及び決算報告について

(2) 理事会

第1回	開催日	2018年4月15日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町22-2）
	出席	4名（本人出席4名、委任状0名、欠席0名）
	決議事項	・文書保存規程について ・会員規程について
第2回	開催日	2018年5月19日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町22-2）
	出席	4名（本人出席4名、委任状0名、欠席0名）
	決議事項	・平成30年度事業計画について ・平成30年度活動予算について ・平成29年度決算報告について
第3回	開催日	2018年9月6日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町22-2）
	出席	4名（本人出席4名、委任状0名、欠席0名）
	決議事項	・役員解任について
第4回	開催日	2018年10月27日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町22-2）
	出席	3名（本人出席3名、委任状0名、欠席0名）
	決議事項	・ビジョンシートについて ・平成31年度助成金申請について ・理事との利益相反取引に関する確認
第5回	開催日	2019年2月24日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町22-2）
	出席	3名（本人出席3名、委任状0名、欠席0名）
	決議事項	・謝金規程について
第6回	開催日	2019年3月22日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町22-2）
	出席	3名（本人出席3名、委任状0名、欠席0名）
	決議事項	・監事解任と選任について ・役員報酬について

(3) 補助金・助成金

補助・助成機関名 (順不同)	内 容	金 額
備前県民局協働事業	病気を抱える子どもの地域支援ネットワークづくり事業	1,435,008
一般財団法人橋本財団	長期治療を必要とする家族へのレスパイトケア	550,000
公益財団法人ベネッセこども基金	自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業	1,650,400
公益財団法人福武教育文化振興財団	病気を抱える子どもと学習支援ボランティアが共に学ぶ体験学習	300,000
公益財団法人キリン福祉財団	病気による困難を抱えた子どもの学び支援事業	300,000
特定非営利活動法人市民社会創造ファンド	学習支援ボランティアリーダー養成および地域連携支援プロジェクト	1,370,000
公益財団法人日本財団	慢性疾病を抱える若者の就労啓発	570,000
日本郵便株式会社	事務所での障害者交流および雇用のためのバリアフリー改修事業	3,425,337

(4) 受託事業

委託元	内 容	金 額
岡山市	岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務	1,800,000

(5) 外部委員会への参加など

委員会等名 (順不同)	委員名
SDGs ネットワークおかやま 副会長	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	三好 祐也
岡山県院内学級連絡協議会	三好 祐也

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人 ポケットサポート

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	317,000	
賛助会員受取会費	525,000	842,000
【受取寄付金】		
受取寄付金	3,414,415	
受取募金	589	
ボランティア受入評価益	360,800	3,775,804
【受取助成金等】		
受取助成金	7,992,519	
受取補助金	1,914,008	9,906,527
【事業収益】		
自主事業収益	14,500	
受託事業収益	1,800,000	
事業収益1	477,192	
事業収益2	62,400	2,354,092
【その他収益】		
受取 利息	30	
雑 収 益	182,435	182,465
経常収益 計		17,060,888
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	2,643,700	
役員 報酬(事業)	907,200	
臨時雇賃金	211,000	
ボランティア評価費用	300,800	
法定福利費(事業)	357,394	
人件費計	4,420,094	
(その他経費)		
業務委託費	110,000	
諸 謝 金	346,000	
印刷製本費(事業)	929,355	
図 書 費(事業)	78,784	
会 議 費(事業)	24,744	
旅費交通費(事業)	362,068	
通信運搬費(事業)	717,558	
文 具 費(事業)	65,983	
消耗品 費(事業)	1,117,780	
修 繕 費(事業)	4,428,000	
広告宣伝費(事業)	44,000	
水道光熱費(事業)	42,000	
会場費(事業)	163,740	
賃 借 料(事業)	268,452	
保 險 料(事業)	31,252	
租税 公課(事業)	400	
支払手数料(事業)	186,474	
その他経費計	8,916,590	
事業費 計		13,336,684
【管理費】		
(人件費)		
役員 報酬	1,192,800	
給料 手当	234,550	
法定福利費	266,105	
ボラ評価損	60,000	
福利厚生費	12,000	
人件費計	1,765,455	

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人 ポケットサポート

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

(その他経費)			
印刷製本費	17,995		
業務委託費	68,200		
会議費	27,000		
図書費	800		
旅費交通費	113,605		
通信運搬費	104,027		
消耗品費	21,139		
研修費	7,500		
地代家賃	600,000		
広告宣伝費	12,500		
諸会費	3,000		
租税公課	2,200		
支払手数料	120,246		
	1,098,212		
その他経費計		2,863,667	
管理費計			16,200,351
経常費用計			860,537
当期経常増減額			860,537
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			860,537
当期正味財産増減額			860,537
前期繰越正味財産額			302,289
次期繰越正味財産額			1,162,826

貸借対照表

特定非営利活動法人 ポケットサポート
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成31年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	100,725		
郵便振替	823,626		
普通預金	1,389,200		
現金・預金計	2,313,551		
(売上債権)			
未収金	275,008		
売上債権計	275,008		
(その他流動資産)			
立替金	6,910		
その他流動資産計	6,910		
流動資産合計		2,595,469	
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
保証金	360,000		
投資その他の資産計	360,000		
固定資産合計		360,000	
資産合計			2,955,469
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金	1,108,087		
前受金	650,000		
預り金	34,556		
流動負債合計		1,792,643	
負債合計			1,792,643
《正味財産の部》			
前期繰越正味財産		302,289	
当期正味財産増減額		860,537	
正味財産合計			1,162,826
負債及び正味財産合計			2,955,469

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

科 目	学習復学支援	交流活動	講演活動	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益						
1. 受取会費	0	0	0	0	842,000	842,000
2. 受取寄付金	0	1,484,800	0	1,484,800	2,291,004	3,775,804
3. 受取助成金等	2,847,182	4,575,337	2,005,008	9,427,527	479,000	9,906,527
4. 事業収益	62,400	1,814,500	477,192	2,354,092	0	2,354,092
5. その他収益	20,160	0	118,690	138,850	43,615	182,465
経常収益計	2,929,742	7,874,637	2,600,890	13,405,269	3,655,619	17,060,888
II 経常費用						
(1) 人件費						
給与 手当	1,229,700	911,000	503,000	2,643,700	234,550	2,878,250
役員 報酬	255,200	592,000	60,000	907,200	1,192,800	2,100,000
臨時雇賃金	15,000	135,000	61,000	211,000	0	211,000
ボランティア評価費用	0	300,800	0	300,800	60,000	360,800
法定福利費	153,790	176,021	27,583	357,394	266,105	623,499
福利厚生費	0	0	0	0	12,000	12,000
人件費計	1,653,690	2,114,821	651,583	4,420,094	1,765,455	6,185,549
(2) その他経費						
業務委託費	0	110,000	0	110,000	68,200	178,200
諸 謝 金	95,000	50,000	201,000	346,000	0	346,000
印刷製本費	279,232	214,909	435,214	929,355	17,995	947,350
図 書 費	15,745	63,039	0	78,784	800	79,584
会 議 費	16,194	6,661	1,889	24,744	27,000	51,744
旅費交通費	150,580	100,800	110,688	362,068	113,605	475,673
通信運搬費	230,424	81,684	405,450	717,558	104,027	821,585
文 具 費	17,140	14,059	34,784	65,983	0	65,983
消耗 品費	362,835	636,850	118,095	1,117,780	21,139	1,138,919
会 場 費	8,220	46,420	109,100	163,740	0	163,740
修 繕 費	0	4,428,000	0	4,428,000	0	4,428,000
水道光熱費	0	42,000	0	42,000	0	42,000
地代 家賃	0	0	0	0	600,000	600,000
賃 借 料	72,876	64,800	130,776	268,452	0	268,452
保 険 料	31,252	0	0	31,252	0	31,252
租税 公課	0	400	0	400	2,200	2,600
研 修 費	0	0	0	0	7,500	7,500
広告宣伝費	0	0	44,000	44,000	12,500	56,500
諸 会 費	0	0	0	0	3,000	3,000
支払手数料	1,674	180,964	3,836	186,474	120,246	306,720
その他経費計	1,281,172	6,040,586	1,594,832	8,916,590	1,098,212	10,014,802
事業費計	2,934,862	8,155,407	2,246,415	13,336,684	2,863,667	16,200,351
当期経常増減額	△ 5,120	△ 280,770	354,475	68,585	791,952	860,537

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

【税込】(単位:円)

内 容	金額	算定方法
交流支援ボランティア	300,800	時給1,600円×年間のべ188時間
経理事務ボランティア	60,000	時給1,000円×5時間×12回
合 計	360,800	

【使途等が制約された寄付等の内訳】

【税込】(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
ベネッセ子ども 基金2017	1,477,182	0	1,477,182	0	双方向WEB学習支援助成金 事業期間: H30年1~12月
ベネッセ子ども 基金2018	0	650,000	0	650,000	双方向WEB学習支援助成金 事業期間: H31年4~3月
合 計	1,477,182	650,000	1,477,182	650,000	

財 産 目 録

特定非営利活動法人 ポケットサポート
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成31年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	100,725		
郵便振替	823,626		
普通預金	1,389,200		
現金・預金計	2,313,551		
(売上債権)			
未収金	275,008		
売上債権計	275,008		
(その他流動資産)			
立替金	6,910		
その他流動資産計	6,910		
流動資産合計		2,595,469	
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
保証金	360,000		
投資その他の資産計	360,000		
固定資産合計		360,000	
資産合計			2,955,469
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金	1,108,087		
前受金	650,000		
預り金	34,556		
流動負債合計		1,792,643	
負債合計			1,792,643
正味財産			1,162,826

前事業年度の年間役員名簿

(平成30年4月1日から平成31年3月31日)

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

No.	役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
1	代表理事	三好 祐也		30年4月1日 ～31年3月31日	30年4月1日～ 31年3月31日
2	理事	松本 圭子		30年4月1日 ～31年3月31日	報酬無し
3	理事	山口 そのえ		30年4月1日 ～31年3月31日	報酬無し
4	理事	遠茂谷 誠彦		30年4月1日 ～30年9月6日	報酬無し
6	監事	大島 美紀		30年4月1日 ～31年3月31日	報酬無し
7	監事	森高 寛行		31年3月26日 ～31年3月31日	報酬無し

【備考】

- 1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
- 2 「役職名」の欄には、理事、監事又は理事の職名を定めている場合はその職名の別を記載する。
- 3 「住所又は居所」の欄には、各役員の住所又は居所を証する書類の記載どおりに記載する。
- 4 「就任期間」の欄には、左に記載された役員全員についてそれぞれ記載し、「報酬を受けた期間」の欄については、報酬を受けたことがある役員はその期間を、報酬を受けなかった役員については「報酬無し」とそれぞれ記載する。